

図書館だより



武雄高校 図書指導部
令和6年9月12日発行
第8号

今回の図書館だよりは 2年4組図書委員 丸山 美羽 と 松本 楓 が作成しました。

秋を先取り!読書の秋 ✨

❖ おすすめの本 Select ❖

●「デッドエンドの思い出」(注文中)以外の3冊は図書館にあるので、手に取ってみてください。

『羊と鋼の森』 宮下 奈都【著】(文藝春秋)

おすすめ理由

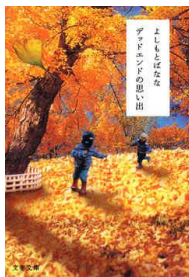
将来の夢をもっていなかった主人公が、高校でピアノ調律師に出会い、調律師として成長していく物語です。音を言葉で表現する文章の美しさが魅力的な一冊です。映画化もされました。



『デッドエンドの思い出』 よしもとばなな【著】(文藝春秋)

おすすめ理由

この本は、時の流れのなかでいきいきと輝いてくる一瞬を鮮やかに描いた一冊です。また、恋愛小説の短編集となっているので、少しの時間でも気軽に読むことができます。朝読にいいかも。



『ルポ 食が壊れる』 堤 未果【著】(文藝春秋)

おすすめ理由

ゲノム編集や人工肉など、今、食に起こっている変化についてよく知ることのできる1冊です。「食欲の秋」に食べるだけでなく、自分たちが今食べているものについて考えてみるのもいいかもしれません。



『傲慢と善良』 辻村 深月【著】(朝日新聞出版)

おすすめ理由

婚約者が姿を消し、その居場所を探すために主人公が婚約者の過去に迫っていく物語です。恋愛だけでなく、生きていく上でのさまざまな痛みや悩みに答えてくれるような1冊です。



ここはあえて、食欲の秋

秋といえば、やっぱりおいしい食べ物ですね!

実は、秋の食べ物には健康にいいものが多く含まれています。例えば、栗。栗には疲労回復や老化防止が期待できます。また、秋鮭は美肌効果も得られます。

読書の秋、食欲の秋、様々な秋を楽しみましょうね。



新着図書案内

☆☆督促状を受け取った人へ☆☆

8月の第3週目に督促状を出しました。受け取った人の中には急いで返却してくれた人もいますが、長期延滞（100日超え）の人もいます。自宅や学校の机の中、バックの中、など返却を忘れている本がないか確認して、返し損ねている本があれば図書館まで返却に来てください。

今回督促状を受け取っていない人も期限内の返却をお願いします。借りている本を期限内に読めなくて、という人もいます。そういう時は一度返却してから、続けて貸出手続きをすればいいですよ。

第171回 芥川賞 受賞作

『サンショウウオの四十九日』 朝比奈 秋【著】（新潮社）

同じ身体を生きる姉妹。その驚きに満ちた普通の人生を描く。周りからは一人に見える。でも私のすぐ隣にいるのは別の私。不思議なことはなにもない。けれど姉妹は考える。隣のあなたは誰なのか？そして今これを考えているのは誰なのか。



『バリ山行』 松永 K 三蔵【著】（講談社）

「バリ山行」とはあえて登山路を外れる難易度の高い登山。会社も人生も山あり谷あり、バリの達人と危険な道行き。圧倒的生の実感を求め、山と人生を重ねて瞑想する純文学山岳小説。



第171回 直木賞 受賞作

『ツミデミック』 一穂 ミチ【著】（光文社）

大学を中退し、夜の街で客引きのバイトをしている優斗。ある日バイト中に話しかけてきた女は、中学時代に死んだはずの同級生の名を名乗った。過去の記憶と目の前の女の話に戸惑う優斗―「違う羽の鳥」渦中の人間の有様を描き取った、心震える全6話。

稀代のストーリーテラーが放つ、鮮烈なる犯罪小説集。



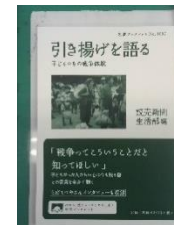
『エンジェルフライト 国際霊柩送還士』 佐々 涼子【著】（集英社）

異境の地で亡くなった人は一体どうなるのか。国境を越えて遺体を故国へ送り届ける仕事が存在する。どんな姿でもいいから一目だけでも最後に会いたいと願う遺族に寄り添い、一刻も早く綺麗な遺体を送り届けたいと奔走する“国際霊柩送還士”。

彼らを追い、愛する人を亡くすことの哀しみや、死のあり方を真正面から見つめる異色の感動作。



『引き揚げを語る 子どもたちの戦争体験』 読売新聞生活部【編】（岩波書店）



「それからのことはどうしても思い出せないんです」「人の死がありふれていました」。第二次大戦が終わり、満州、朝鮮半島、台湾など外部で生活していた人の多くが命からがら日本に帰ってきた。その苦難の証言が大きな反響をよび投稿が相次いだ連載企画に、識者インタビュー、記念資料館案内、ブックガイドを増補。

『キッチン常夜灯』 長月 天音【著】（角川書店）

街の路地裏で夜から朝にかけてオープンする“キッチン常夜灯”。チェーン系レストラン店長のみもぎにとって、昼間の戦闘モードをオフにし、素の自分に戻れる大切な場所だ。この店の常連になってから不眠症も怖くない。農夫風ポタージュ、赤ワインと楽しむシャルキトリ、ご褒美の仔羊料理、アップルパイなど心から食べたい物だけ味わう至福の時間。寡黙なシェフが作る一皿は、疲れた心をほぐして、明日への元気をくれる。―共感と美味しさ溢れる温かな物語。



『ダチョウはアホだが役に立つ』 塚本 康浩【著】（幻冬舎）

ダチョウはホンマにアホな鳥。でも、地球を救ってくれるんですー。家族が入れ替わったことにも気づかないほど鈍感力が高いが、卵から取り出す抗体は感染症予防やがん治療、メタンガス削減に役に立つとされ、世界中の企業が、熱視線を送る。「ダチョウ博士」と呼ばれる著者が面白すぎる生態から抗体の最新研究までを説く。爆笑必至の科学エッセイ！

